

北海道鉄道本部が春闘学習交流会

賃金改善・職場環境改善・安全とサービス向上を

北海道鉄道本部は2月8日に「2020年春闘学習交流会」を開き、各支部から17名の仲間が参加しました。交流会では道本部の宮澤書記長と札幌地区労連の木村事務局長が講演し、加藤副委員長が「働くみんなの要求アンケート」の取り組みについての到達状況の報告をおこないました。竹田委員長から「2020春闘要求と課題・行動提起」がされ、JR北海道への「申し入れ書」を基に「雇用延長制度で非正規労働者の処遇改善」など、賃金改善、職場環境改善、安全とサービス向上に向けた要求などについて確認しました。

宮澤書記長からは「オーストラリアの労働運動」と題して、昨年10月に南オーストラリア州のアデレードで開かれたCFMEU建設一般部門の全国大会の様子などについて報告され、木村事務局長は、全労連の「3つのたたかいの柱」を念頭に春闘をたたかい、4月から始まる「不合理な待遇格差の禁止」に向けた職場での労働組合の果たす役割の重要性や、国民的要求課題での「消費税減税」「改憲阻止」に向けた運動を連動してたたかい地域総行動や全国統一行動へ結集することを提起し、ともに奮闘しようと呼びかけました。

討論では、新車両導入に伴い「視認性のよいスイッチの採用」、「部品の統一化」などを図ることで、JRを利用するお客様の安全や安心をまもり、会社にとっても有益につながるなどが議論されました。

釧路支部の「相談会」に26人

職業病・労災関係23件/建退共10件

釧路支部は1月26日と2月2日に釧路市内と白糠町の4会場で「職業病健康相談会・建退共相談会」を開き26人からの相談を受けました。この相談会にむけて、新聞の折り込みチラシ11万枚や無料紙への記事掲載、地元FM局への出演のほか、釧路市・釧路町・白糠町・鶴居村の後援をもらい、釧路市などでは自治体の広報誌にも掲載されました。相談者の多くはチラシを見ての参加でしたが、広報誌を見て参加した人も4人いました。相談内容は職業病・労災についてが23件（振動障害13/石綿1/難聴8/労災1）、建退共が10件などで、建設関係の相談者15人のほか、炭鉱（現役と離職者）や自動車整備や水産加工で働いた労働者が相談に来ました。

釧路支部はこのあと美幌町（3月28日・美幌支部と共催）と北見市（3月29日）でも相談会を準備しており、北見市をはじめオホーツク管内10自治体から後援をもらっています。

いの健北海道センターが労働局要請

働く人びとのいのちと健康をまもる北海道センターは、1月30日に北海道労働局要請をおこない、「働き方改革」による長時間労働の抑制策、道内における労働安全衛生活動、労災補償行政の適切な実施、北海道における労働行政の充実・強化について、監督課・安全課・健康課・労災補償課・総務課の課長などと意見交換しました。この中で、じん肺の遺族補償が不支給となる事例が続いていることについても取り上げられました。